

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年 9月 13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675400073号
法人名	医療法人 一桜会
事業所名	グループホーム さくらのお家
所在地	鹿児島県始良市蒲生町上久徳2511-2 (電話) 0995-52-1881
自己評価作成日	平成22年8月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらのお家は、伝統的な町並みの中の、静かで過ごしやすい場所にあります。利用者お一人おひとりの生活パターンを大切にしながら過ごす中で日常的に散歩やドライブに出かけています。また四季を感じて頂けるよう季節の食材を使用した食事の提供、花見・節分などの行事を行なっています。医療面では、母体のクリニックと日常的に連携を図っており、利用者・家族が安心できる体制を整えています。地域との交流にも力を入れており、地域の行事への参加だけでなく事業所の行事にも来て頂いたり、また緊急時の協力体制も作り上げています。利用者の皆さんが「何を求めているか」といつも念頭に置き、日常の一つ一つの出来事に共感していくことを大切に、そして主体的に生活して頂けるよう、地域の皆様にも協力を頂きながら支援することを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは住宅地にあり地域住民との交流が盛んで、ホーム主催の月見会は利用者、家族、母体クリニック院長はじめ職員、住民参加の地域に根ざした行事となっている。設立11年目を迎え、年1回以上の家族面談を実施し、利用者、家族などの意見を運営に反映させている。加盟する伊佐始良地区グループホーム連絡協議会に青年部を発足し、同業者との交流がより深まり、研鑽やサービス向上に活かされている。管理者、職員は何を大切に利用者に向き合うか、日々、話し合い、理念を実践に活かしている。利用者に四季を感じてもらえるよう食事、行事に季節感を取り入れる工夫をし、利用者の状況に適合した生活リズムを保ちながら心身の安定を図る支援を実践している。今後の目標として利用者の社会参加を目指すなど、常に精進しているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は理念を共有し合い入居者の方々が日々安心した生活が送れるよう心掛けている。	理念を玄関、パンフレット、重要事項説明書に掲げ、共有している。常に理念に立ち返り、住み慣れた町で明るく生きるための支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等（敬老会、運動会）の参加、地域清掃活動に参加し交流を図っている。	自治会に加入し、清掃、花見、運動会に参加している。ホーム主催の月見会には住民参加がありホーム自体が地域の一員として日常的に交流している。住民からの介護に関する相談に応じるなど、ホームでの成果を地域に還元していく取り組みも実施している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣の方々が来訪しやすい雰囲気づくりに努め、相談してもらえるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に家族、民生委員、行政も参加して頂き現状の報告意見等を出し合いサービスの向上に活かしている。	定期的に家族、地域代表、行政、消防団員、民生委員の参加のもと、現状報告、意見などを出してサービス向上に活かしている。夜間の防災についてはフライパンや金具をたたいて住民に知らせ、協力を繋げていく応援体制ができている。家族へ議事録を公表し共有化を図っている。	

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年3町合併があり（始良、加治木、蒲生）広域に渡り担当者との交流、連携を図り協力関係を築き深めることを目指している。	行政にも会議に参加してもらい、事業所の実情や行事等の報告をしたり、運営推進委員会に参加してもらうなど、連携を図り協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要以外の身体拘束を行わないために、状況に応じた声かけや見守りを行い、極力身体拘束に頼らないサービスの向上に努めている。夜間帯に限り、防犯・安全面に配慮し、玄関の施錠を行っている。	法人の身体拘束委員会にホームからも参加、状況を報告し、全職員が知識を共有している。状況に応じた声掛け、見守りを行い拘束しないケアを実践している。日中は施錠せず、帰宅願望の強い利用者の思いに沿った支援ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修への参加や、普段の言葉遣いや心構えをいつでも再確認できるよう、ミーティングや申し送り時に話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加することで権利擁護について学び、管理者だけでなく全スタッフが相談を受けられる体制を目指している。		

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書内容を重要事項説明書と併せて十分に説明を行っており、入院・ターミナル期においては随時必要な相談・説明を行い、ご家族や利用者様に不安がないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回以上の家族面談を実施し、利用者様が安心して生活できるよう意見や要望を伺う機会を設けている。また、2ヶ月に1回運営推進会議の中でもご家族の意見や要望を伺っている。必要に応じてアンケートを実施している。	本年度から家族会を年2回実施している。ホーム便りも毎月1回発行し、ホームでの利用者の様子を報告している。家族面談をもち、家族の思い、要望を伺い、利用者のケアサービス向上に活かしている。今後も家族面談の充実を図り、運営に反映させていく方針である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、事前に議題を提案し、話し合う機会を設けている。職員の伝言ノートを作成し、意見や提案等も記載できるようにしている。	職員の伝言ノートを作成し、意見や提案を記載し、常に情報交換の場をもっている。職員各自が委員会に所属し、責任感をもって勤務しているので、運営に関しても職員の意見が十分に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主任会議や全体ミーティングの場で、職員の声を聞き、各自働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。		

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月1回院内研修を行い、ケアの質の向上に努め日々のケアに活かしている。一人ひとりのレベルに見合った外部の研修へ勤務の中で参加できるよう調整している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良・伊佐地区グループホーム連絡協議会への積極的参加を行い、良い刺激を受けている。また、同連絡協議会青年部も発足し、より一層の交流が深まりつつある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より話しを伺う機会を作り、不安や要望を伺っている。入居前から顔見知りとなり、段階的に信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前より話を伺う機会を持ち、事前に利用者様の生活歴や習慣を把握し、また要望を伺うことで、不安や心配事のないよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族だけでなく、利用前に関わりのあった施設やサービス等より情報提供を頂き、必要なサービスの内容を見極めた上での利用開始を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ミーティングや申し送り時、ご本人様の「出来ること」を見極め、一方的なケアではなく、役割や簡単な手伝い等を行っていただくことにより、支え合える関係を築いている。		

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の精神的負担を軽減できるようにいつでも話を伺える環境づくりを行い、またレクリエーションや行事等に参加して頂くことで職員と共に支え合える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様との関わりの中で知り得た交友関係や、馴染みの方が来訪の際は心地よく過ごして頂けるよう、また来訪しやすい雰囲気作りや声かけを行っている。	家族や知人の訪問、電話支援、墓参り、なじみの美容院の利用など職員が同行しなじみの関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や関係性を読み取り、利用者様同士の円滑な関わり合いを配慮した上で、気持ちよく支え合える支援を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もそれまでの関係性を大切にし訪問や連絡を下さっている。相談に助言を行い、必要に応じて支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、利用者様の思いを引き出せるよう心掛けており、ご家族と相談しながら思いの実現に努めている。	日常生活の関わりで表情や行動、会話の中から一人ひとりの思いを引き出すなど、職員の気づき、家族面談や面会時の家族意見を聞いて、思いの実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報提供を基に、日々の関わりの中でご家族やご本人様からも伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、レクリエーションや会話等、日々の関わりの中で特に変化があった場合は個別に記録を残し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアのあり方について、家族面談や、ご家族来訪時にも話し合いの場を持てるよう努め、要望や意見を取り入れた上で現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向や要望を尊重し、個別的な介護計画を作成している。日々利用者の行動などを詳細に記録し、定期的な見直しの他、状態変化や入退院後、全員で検討し現状に即した新たな介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日常記録への記入、申し送り等での情報を共有し、介護計画に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご要望に応じて、出来る限り柔軟な支援・サービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員・民生委員や地域住民の協力を頂いており、ボランティアも積極的に受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にての定期受診・必要に応じての受診と、医療体制との連携を築きご家族の協力を頂けるときはお願いをしている。	かかりつけ医の定期受診と医療連携体制のもと、週2回は看護師の訪問を受け、健康管理支援ができています。かかりつけ医はホームの行事、会合にも参加をもらい利用者、家族、職員との信頼関係もできています。	

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の変化や症状等、看護師スタッフへの連絡相談の他、週2回の医療連携・24時間体制でのクリニックとの連携体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者と十分に情報交換を行い、ご家族に不安を抱かせないよう十分な説明を医師より行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書において指針を説明しており、必要に応じてご家族や関係者と随時話し合いを行い、十分に理解いただき医療機関と連携を取りながら支援を行っている。	重要事項説明書に「重度化に係る指針」「看取り指針」を記載し、利用開始時に説明し同意をもらっている。家族面談の中でも話し合いをもち意向を聞いている。状態変化に応じ、その都度医師、家族と十分に話し合い、意向の確認を行った上で職員を含む関係者間で方針を共有し、ホームで出来る最大限のケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修や避難訓練時、消防や看護師の指導のもと、緊急蘇生法や対応の方法を学んでいる。		

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練毎月の小規模訓練を行っている。避難訓練の時は地域の方を交え訓練するなどし、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害発生時の対応マニュアルを作成している。年2回、地域住民の参加を得て夜間想定避難訓練を実施している。毎月1回は自主的に小規模訓練を行い、防災設備や備蓄の点検、避難経路の確認をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や動向を把握し、誇りやプライバシーを損ねないようにさりげない声かけを行うよう心掛けている。	月1回のミーティングで法人の研修会報告をし、話し合いをもっている。全職員が回覧板チェックで情報の共有ができています。自己決定しやすい言葉かけ、利用者の能力に応じた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で好きなことへの参加を心掛け、声掛けや誘導をおこなう際も自己決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の活動の中で利用者様が興味や関心を持たれた事を中心に柔軟な対応を心掛け、希望にそった生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人らしい身だしなみができるよう、状況に応じて助言や支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材の下準備をご本人様の状態に合わせてできるだけ一緒に行い、配膳や片付けのできる方には無理のない範囲で一緒に行っている。	食事を1日の大切な活動のひとつとらえている。季節感を出すメニューを取り入れ、食事からも季節を感じてもらえる支援や特別メニューの誕生会、焼きそば、お好み焼き、ソーメン流し、外食など家族同伴で楽しんでいる。	

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事量のチェックを行い、一日の水分量と共に記録している。摂取量の少ない方にはこまめに声かけを行い、一日を通じて確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方にはご自分で行っていただき、必要に応じて歯磨き介助や声掛け・見守りをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの自立した排泄を行っていただき、一人ひとりに応じた見守りや、介助を行っている。ご本人様の希望や状態に応じて、夜間はポータブルトイレを使用している。	業務日誌の中に排泄チェックを記載し時間誘導にて自立排尿につながるよう支援している。どのような利用者に対しても生活歴をみたり、トイレでの排泄確認を細かくチェックしたりして職員間で試行錯誤し工夫を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状況に応じて医師の処方による下剤を使用。水分量の少ない方や、運動量の少ない方には必要に応じて声かけを行い、規則正しい排泄リズムを目指している。		

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	大まかな時間や順番を決めているが、希望や利用者様の状況により柔軟に対応するようにしている。	毎日、入浴可能で午後からの実施が多い。利用者は入浴する順番にこだわる方が多く柔軟に対応している。ドライブがてら足湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の習慣や気分に合わせて昼夜逆転に注意しながら、好きな時間に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により、服用している薬についての勉強会を行っている。利用者様の状態に応じ、かかりつけ医師や看護師へ相談し、変薬等共通認識を持つよう伝言ノートを活用している。また、すぐに見られる場所に薬の説明書を設置してある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に無理のない範囲で日々の役割が持てるよう支援を行い、利用者様の興味や気分転換できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で、天候や利用者様の状況に応じて散歩やドライブ等行っている。ご家族の協力が頂ける方は、外出や外泊等、一緒に過ごして頂けるよう支援している。	天候や利用者の状況を見て日常的に近隣の公園や幼稚園まで散歩したり、ドライブに出かけている。基本的に特別な個々の外出支援は家族同伴である。利用者の要望を聞いて弁当持参の外出や花見など名所見物に出かけている。	

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>多額でなければお金を所持して頂けるよう体制は取っているが、希望者がおられない為、現在は預かり金として、欲しいものや必要なものを利用者様の要求に応じて購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人様の要求により、施設よりご家族へ電話をかけるよう体制をとっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やリビングにできるだけ季節の花を飾るようにし、季節ごとに壁画を作成することで季節を感じていただけるよう配慮している。</p>	<p>共用空間は広い間取りになっていて、季節の花や壁画など季節を感じる居間は、利用者が生き生きと楽しく日常生活を過ごせるよう配慮している。トイレも車椅子、歩行器で使用できる広さを確保し、居心地よく生活できるよう工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人ひとりが好きな場所で過ごされており、テレビを見たり、歌の本を見たり、テラスへ出たりと自由に過ごされている。</p>		

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の部屋として、使い慣れたベッドやタンス・椅子等を持ち込んでいただき、不足があればご家族と連携し、ご本人様に満足して過ごして頂けるよう努めている。	使い慣れたなじみの家具や趣味のものが持ちこまれ、利用者それぞれの個性がうかがえる居室で居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングや通路等に手すりを設置し、テーブルや椅子を、車イスや歩行器の妨げにならないようかつ、伝い歩きしやすいような配置に心掛けている。居室の名札のほかに、花や、飾り等の目印を付けるなど工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム さくらのお家 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない